

(2) コースの概要

コース名：札幌医科大学附属病院 耳鼻咽喉科コース						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
札幌医科大学附属病院	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	10	耳鼻咽喉科一般・救急疾患、頭頸部外科疾患、人工内耳挿入術を含めた耳科手術の周術期管理と手術経験。アデノイド切除術、扁桃摘出術、鼓膜チューブ留置術は他コースの研修医も研修可能(3~12ヶ月)。	7	4~5年
KKR 札幌医療センター斗南病院	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	3	耳鼻咽喉科一般、頭頸部・頭蓋底外科の周術期管理と手術経験。他コースの研修医も研修可能。	2	1~3年
KKR 札幌医療センター	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	3	耳鼻咽喉科一般・救急疾患、頭頸部外科疾患の周術期管理と手術経験。他コースの研修医も研修可能。	2	1~3年
JR 札幌病院	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	1	耳鼻咽喉科一般・救急疾患、とくに慢性中耳炎疾患を中心とした耳科手術の周術期管理と手術経験。他コースの研修医も研修可能。	2	1~3年
市立小樽病院	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	1	耳鼻咽喉科一般・救急疾患、頭頸部外科疾患の周術期管理と手術経験。他コースの研修医も研修可能。	2	1~3年
帯広厚生病院	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	3	耳鼻咽喉科一般・救急疾患、頭頸部外科疾患の周術期管理と手術経験。他コースの研修医も研修可能。	2	1~3年
帯広協会病院	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	1	耳鼻咽喉科一般・救急疾患の周術期管理と手術経験。他コースの研修医も研修可能。	1	1~3年
市立室蘭総合病院	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	2	耳鼻咽喉科一般・救急疾患、頭頸部外科疾患の周術期管理と手術経験。他コースの研修医も研修可能。	2	1~3年
市立函館病院	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	2	耳鼻咽喉科一般・救急疾患、頭頸部外科疾患の周術期管理と手術経験。他コースの研修医も研修可能。	1	1~3年
函館五稜郭病院	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	2	耳鼻咽喉科一般・救急疾患、頭頸部外科疾患の周術期管理と手術経験。他コースの研修医も研修可能。	2	1~3年
江別市立病院	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	1	耳鼻咽喉科一般・救急疾患、頭頸部外科疾患の周術期管理と手術経験。他コースの研修医も研修可能。	1	1~3年
北海道立子ども総合医療・療育センター	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	1	耳鼻咽喉科一般疾患の周術期管理と手術経験。とくに新生児聴覚障害の診断および治療。他	1	1~3年

				コースの研修医も研修可能。		
中村記念病院	神経耳鼻科	耳鼻咽喉科	1	耳鼻咽喉科一般疾患の周術期管理と手術経験。とくに急性感音難聴, 末梢性顔面神経麻痺, 嚥下機能障害の診断および治療。他コースの研修医も研修可能。	1	1~3年
東京慈恵会医科大学附属病院	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	4	内視鏡的耳鼻咽喉科の研修。	1~4	1~3年

(3) コースの実績

2007年の札幌医科大学病院耳鼻咽喉科における手術症例数は564例であり、各関連教育機関はいずれも道内耳鼻咽喉科医療の中核的病院として十分な症例数を誇る。また、扁桃・鼻アレルギー・中耳炎、聴覚中枢などの幅広い領域で臨床に根ざした研究が行われており、研究成果は多数の学会および専門誌上に発表されている。これらは一般診療能力に加えより高い専門性を取得するのに十分な実績を有している。

(4) コースの指導状況

札幌医科大学病院耳鼻咽喉科には14名の日本耳鼻咽喉科学会専門医制度の専門医がおり、うち10名が常勤にて研修指導にあたる。また、関連医療機関にも22名の専門医が常勤して学会指定修練施設あるいは関連施設になっている。指導医あるいは専門医に欠員が発生した場合には、優先的に大学病院あるいは他の関連医療機関から指導医あるいは専門医が派遣され学会指定修練施設・関連施設の資格は維持される。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本耳鼻咽喉科学会
資格名	耳鼻咽喉科専門医
資格要件	<p>< 専門医申請資格 ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本国の医師免許を有する者。 2. 連続して3年以上、日本耳鼻咽喉科学会の正会員である者。 3. 日本耳鼻咽喉科学会が基準に基づいて認可した耳鼻咽喉科専門医研修施設において、研修カリキュラムに従い臨床研修終了後4年以上の専門領域研修（そのうち3年以上は耳鼻咽喉科専門医研修施設における研修でなければならない。）を修了した者。 <p>< 試験内容 ></p> <p>専門医認定試験実施要項に基づき以下の審査を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本学会へ提出された専門医認定申請書、履歴書、医師免許証（写）、認可研修施設における研修修了証明書、臨床記録および研究業績リストに基づき専門医制度委員会において受験資格の有無を審査する。 2. 前項の資格審査に合格した者に対して、試験委員会は2日間にわたる筆記試験、小論文、口頭試問の出題と採点を行う。

	<p><定期的な更新制度></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門医の認定更新時期 専門医の認定を受けた者は、5年ごとに認定の更新を行う。 2. 専門医の認定更新基準 <ol style="list-style-type: none"> ア) 本学会が主催または認可した学術集会、講習会等において一定単位以上出席した実績を有すること。 イ) ア)に該当しない場合であっても、著書、論文、学会発表、研修会講師、自己研修を勘案して相当の研修実績をあげたと評価しうること。 ウ) 年間 50 単位以上の研修実績を必要とし、そのうち、学術集会等に関する単位は年間 40 単位以上を必須とする。なお、学術集会参加実績の最小単位は 5 である。
<p>学会の連携等の概要</p> <p>当該学会主催の年次学術講演会，17 の耳鼻咽喉科関連学会主催の講演会，年 2 回の地方部会学術講演会，北海道ブロック講演会に積極的に参加し，耳鼻咽喉科・頭頸部外科の幅広い知識を習得可能である。</p>	